

38号車「KeePer CERUMO GR Supra」

トラブルを乗り越え、粘り強く疾駆するも、23号車が追突しリヤカウルを大きく破損。無念のリタイア...

公式練習ではオーバーステアに苦しみながらも、公式予選までのセットアップ改善で予選5番手と表彰台圏内をうかがう好位置につけた。決勝日、ウォームアップを前に雨が降り出した。路面は急速にウェットコンディションに転じていくが、東コースのみで西コースの路面は乾いている難コンディションとなったが、ウェットタイヤをトライ。しかし、グリッドへの試走が行われる頃には雨は止み、晴れ間もさす状況に。パレードラップスタート時にドライとなり、決勝レースがスタートした。

スタートドライバーを務めたのは大湯都史樹選手。序盤こそ4番手を走る#8 CIVIC TYPE-R GTのテールをうかがう走りを見せるが、タイヤから振動が発生しはじめてしまう。タイヤの表面にゴムのカスがつく「ピックアップ」と呼ばれる現象が発生してしまっただ。少しずつペースが苦しくなった大湯選手の後方からは、#3 Z NISMO GT500を先頭とした集団が接近。12周を過ぎる頃には、大湯選手を先頭にした5番手の集団が形成された。大湯選手は持ち前の技術でしばらく粘りの戦いをみせ5番手を守っていたものの、22周目、ガクンとペースが落ちてしまう。大きなピックアップがついてしまったためだ。まっすぐ走ることでもできない状態になってしまい、チームは緊急ピットインを行った。ライバルたちには比べるとかなり早めのストップだ。その後、ライバルがコースに戻っていくたびに順位は少しずつ上がっていった。ピットインを早めに行い、フレッシュなタイヤでコースの空いている場所を走りタイムを稼く作戦がアンダーカットだ。しかもピットで計算を行ったところ、大湯選手がこの後のステントを引っ張れば、あと1回のピットストップで石浦宏明選手に交代し走りきれることが分かった。

しかしまたもタイヤのピックアップによる振動が発生してしまう。大湯選手はなんとかダメージを最小限に留めていた。しかし40周目、#8 CIVIC TYPE-R GT、#23 Z NISMO GT500をディフェンスしながら日立Astemoシケインにアプローチした大湯選手に、思わぬ衝撃が走った。#8 CIVIC TYPE-R GTのアウトからアプローチした#23 Z NISMO GT500が姿勢を乱し、KeePer CERUMO GR Supraのリヤに激しくヒットしてしまっただ。リヤカウルを大きく破損し、ピットに戻ることになるがダメージはフロアにまで及んでおり、苦渋のリタイアを決断することになった。



38号車にEXキーパーを再施工しました!



61号車「SUBARU BRZ R&D SPORT」マシントラブルでリタイア

Q1を担当する井口卓人選手は1分58秒650という暫定トップタイムをマークし、タイヤを温存するため早々にピットに引き上げる。セッション終了間際にタイムが更新され、2番手となったものの、上位グループであるQ2グループ1に入る。Q2を担当した山内英輝選手は好パフォーマンスを発揮し、予選Q2で早々に暫定トップタイムをマークする速さを披露。しかし合算タイムではライバルが上まわる結果となり、2番手グリッドから勝利を狙う。



決勝、フロントロウスタートの山内選手は2番手のポジションを維持して周回を重ねていくが、3番手に後退。その後レース開始後約1時間で29周終了後にピットイン。レース前に小澤正弘総監督が「タイヤ無交換作戦を採るライバルとの差は詰められる」と語っていたとおり、山内選手はフレッシュなタイヤを活かして好ペースを保ちながら着実にポジションを取り戻していく。44周目には、ヘアピンコーナーの立ち上がりでタイヤ無交換作戦のライバルをオーバーテイクし、表彰台圏内の3番手に浮上。レース後半に向けてよい流れを作れているように見えた矢先、突然のマシントラブルが山内選手を襲う。47周目、駆動を失い、ヘアピン立ち上がりイン側の芝生に力なく停車。チームはリタイアを余儀なくされた。

100号車「STANLEY CIVIC TYPE R-GT」

難しい戦いを強いられるも”熱い”走り続け、7位フィニッシュ

予選の結果、10番手からのスタートとなる決勝。ウォームアップ走行を前にして本降りの雨となり、ウェットコンディションに変わってしまう。予定していた決勝でのドライセッティングの最終確認ができぬまま、走行を終えることに。ところがスタート進行が始まるとすっかり雨が上がり、すっかり路面もドライに。前日予選でタフなアタックを行なったユーズタイヤが装着された。



第1ステントを務めるのは、牧野祐祐選手。思うほどのペースが確保できず、徐々に防戦が増えていく。後続の#36 GR Supraと順位を入れ替えながらの激しいバトルに挑み、その後ピットイン。山本尚貴選手へとスイッチする”フルサービス”を済ませ、コースに復帰。早速山本選手はすぐさま#23 Zを逆転し、9番手で周回を重ねていく。FCY導入を境にして、今度は#3 Zを抜き、次なるターゲットを#24 Zに定めて力走。6番手へと浮上した。62周終わりにピットイン。山本選手がダブルステントで走行再開。残り時間が30分強に迫るなか、引き続き6番手を走行。前#17 CIVIC TYPE RGTが迫ってくる。最後の最後まで手に汗握るバトルを繰り広げてチェッカーを目指したが、最終ラップのシケインにおいて惜しくも先行を許すことになり、7位でチェッカーを受けた。

SUPER GT 2024シリーズ スケジュール

	日程	会場
Rd.4	8/3(土)4(日)	富士スピードウェイ(静岡県)
Rd.5	8/31(土)9/1(日)	鈴鹿サーキット(三重県)
Rd.6	9/21(土)22(日)	スポーツランドSUGO(宮城県)
Rd.7	10/19(土)20(日)	オートポリス(大分県)
Rd.8	11/2(土)3(日)	モビリティリゾートもてぎ(栃木県)

2024シリーズは「CERUMO」とタッグを組み、クルマ好きユーザー層に対してKeePerのブランドイメージをより深く訴求していくとともに、日本国中のキーパープロショップ、キーパー施工店を応援すべく、フルカラーのKeePer号でスーパーGT 2024シリーズに挑みます!皆様、応援よろしくお祈りします!!



新型車 車種サイズ情報

●スズキ/スーパーキャリー
サイズ:Sサイズ
(3,395×1,147.5×1,765mm)



●ホンダ/ヴェゼル
サイズ:Lサイズ(同じ)
(4,330×1,790×1,580mm)



●レクサス/LM500h version L
サイズ:XLサイズ(同じ)
(5,125×1,890×1,955mm)



●スズキ/ハスラータフワイルド
サイズ:SSサイズ(同じ)
(3,395×1,475×1,680mm)



●ホンダ/フリード
サイズ:Lサイズ(同じ)
(4,265×1,695×1,710mm)



広報・メディア情報

●TV取材
テレビ岸和田「ジモまる」にて紹介されました!

テレビ岸和田さんの「ジモまる」という番組の「南舟の今月も頂戴いたします」というコーナーでキーパーラボ岸和田北店を取材していただきました!!関西初のディーラー併設のLABOであることや、テレビ局の車がキーパーコーティングによってきれいになる様子が紹介されました。



●オウンドメディア
自分でできる!お風呂の浴槽コーティングキットが新登場!【笑激SHOCK】



油汚れもはじく!? キッチンシンクにコーティングDIYキット新登場!【笑激SHOCK】



ついに風呂の浴槽、キッチンシンクや洗面台にもキーパーコーティングができるようになりました!激落ちくんで有名なレック株式会社とコラボレーションのDIY商品です。浴槽コーティングは皮脂汚れが付きにくくなり、日ごろのお風呂掃除も楽になります。キッチンシンク・洗面台コーティングは油汚れが付きにくくなり、細かい傷も埋まり新品のように蘇ります! 各動画ではそれぞれの商品の使い方をわかりやすく説明しています。